

# グッチョ

Guccho

“何かをし合う”意味の筑後弁！

〇〇し合えるまちへ。「支えぐっちょ」「つながりぐっちょ」な人や取り組みを紹介する地域福祉マガジン

VOL. 19

## 制度や支援に「生活者」の視点



### 重層的支援体制の整備 | Establishment of a multilayered support system

福祉の制度や窓口は分野ごと。それゆえに対応できない複雑な課題もあり、そのための支援体制を作っています。大切にしている視点は「支援者、対象者ではなく『人』」。単に仕組みをつくるのではなく、人の思いを込めながら進めています。

事業の核「重層的支援会議」でホワイトボードに情報を整理する社協の職員。事務局として、各支援機関から寄せられるケースに対してみんなでアプローチを考える調整役を担います



「普通」の人の感覚でー。

専門知識が必要とされる支援の現場とは、真逆のように感じます。しかし今、最も大切だと感じている視点です。言い換えれば「生活者としての感覚」。久留米市で新たな支援体制づくりを進めながら、関わる人々の声を聞くうちに気付きました。

## 垣根を超えるための工夫を

福祉の窓口は「子ども」「高齢者」「障害者」などの分野に分かれています。しかし実際の暮らしでは、課題は分野を越えて絡み合っています。簡単には解決できない状況で、生きづらさを抱えた多くの人が暮らしています。

令和3年度、久留米市は「重層的支援体制

整備事業」に着手しました。社会福祉法の改正を受けた動き。「複合的な」「狭間の」課題を抱える人や家族に寄り添い、分野の垣根を越えて支援するためです。

例えば、介護が必要な親とひきこもりの子どもだけで孤立している世帯。生活に困り、ごみ袋に囲まれながらも公的な支援は受けていない一人暮らし。そのような人を想定しています。

初めに必要だったのは、行政機関や民間の支援機関が「垣根を超える」ことでした。まずは形からと、会議では机を置かず椅子を円形に配置。なるべくくだけた雰囲気を作りました。毎回「夏休みの思い出」や「最近のグッド/バッドニュース」など、その人の生活感が出る話題から入ります。

## 支援対象者が「趣味の先輩」

開始から1年半が経ち、支援に関わる人に「人」としての関係が芽生えてきました。支え合ったり、課題を持ち寄ったりという動きが少しずつ、生まれています。

北部障害者基幹相談支援センターの藤井誠さんは、「社協は困りごとを抱えた人と時間をかけて信頼関係を築いてくれる。その上でつないでくれるのがありがたい」と言います。事前に情報をつかんだことで、より深い関係が築けて、中には趣味の話までできるようになった事例も。「支援の対象者が私と同



事業が始まる前との違いを話す藤井さん。「支援側も孤独になりがち。仲間の存在は心強いです」



対応できる制度がなかったり、複数の課題が重なっていたり。正解のない中、みんなで知恵を絞っています



重層的支援会議には、地域包括支援センター、障害者基幹相談支援センター、生活自立支援センター、市役所の各担当部署の職員、社会福祉協議会などが参加。そこに地域の民生委員や友人、近隣住民なども参加し、一緒に対応を考えます

じ趣味で、その道の大先輩だと分かったんです。すると、また違った支援の可能性が浮かんできます」と笑顔がこぼれます。

## 「こうあるべき」をわきに

さまざまな住民の困り事に対応している久留米市社会福祉協議会の和田健さんは、支援で陥りがちな「こうあるべき」という思考を一旦脇に置き「一人の人」として関わります。何より本人の気持ちに寄り添うようにしています。

和田さんは、校区の支え合い活動の会議などで裏方を務めてきました。役員さんとのやり取りでも「こうしてほしいんです」から入るのではなく、「その気持ち分かります」から。そうして、地域の人々と時間をかけて信頼関係を築いてきたそうです。今年度から個別の世帯の支援を受け持つ立場になり、「ここぞという時に話を聞いてもらえています。『この人の見守りをお願いします』と頼める関係もできたし、何より、『生活者』として同じ立場で悩みに寄り添えるようになったと思います」。

## 制度と地域の良さを混ぜ合う

体制整備では「制度と地域、それぞれの良さを混ぜ合わせることを」目指しています。担当者でもある筆者の子育て経験でも同じ思いを感じました。娘以外、一日中誰とも会



「怒られることもあって、いろいろ苦勞しましたよ」と話す和田さん。社協はさまざまな機関の調整役。和田さんたちへの期待はますます高まります

話しない日々。次第に笑顔の作り方がわからなくなっていました。もちろん、公的な窓口やサービスで助かった部分も少なからずありましたが、講座に参加して出会ったママ友といろんな話や相談ができて、とても気持ちになりました。

「制度の心強さ」と「地域ならではの安心」。両方のいろんな面が混じり合う体制になればと思っています。

（担当・けーたる）



取材する筆者。広報久留米にも出ました

\地域福祉マガジン/ 久留米市役所 地域福祉課  
〒830-8520  
久留米市城南町15-3  
☎0942-30-9175  
Fax0942-30-9752

**グッチョ**  
Guccho